

社会と教会
生活と信仰
平和・人権
分かち合い

No.22

共に生きる

聖家族有志会報

はづき
月
8
2012

編集/〒806-0049 北九州市八幡西区穴生1-8-10 アドラック内 /瀬下幸弘



7月8日(日)、小倉市街をパレード。シスターたちも改定入管法に反対し、最前列で行進しました。

八幡西区に **えっ!、バナナ?**



中央に黄色の房が

それはバナナでは?」と。
そうなんです。庭に本物
のバナナの木に実がなり
ました。味は保障できま
せんが。(読者投稿)

8月12日(日)、**平和の集い**

車を4~5台用意しますので、便乗してください。(お一人200円程度
交通費をお願い致します)

お知らせ

- ◆8月4日(土) 教区信徒協研修会準備(大名町)…13時30分
- ◆8月6日(月)～平和旬間 15日(水)まで
- ◆8月7日(火) 社会福音部会(アドラック)…19時
- ◆8月11日(土) イチイチ祈りの会 修道院…13時30分
小倉教会、平和の集い準備…13時30分
- ◆8月12日(日) 北九州平和の集い(前田司教来北)
…小倉、11時30分開場 13時～集い→16時終了
- ◆8月19日(日) 平和の集い反省会(戸畠)…14時
- ◆虹の会は8月お休み 次回 9月22日
- ◆8月26日(日) 教区信徒協(大名町)…13時30分

2030年のエネルギー・環境のあり方を、原発依存度を
①ゼロ(%)シナリオ②15(%)シナリオ③30(%)シナリオ
この3つのうち1つを選んでご意見を出して下さい。

8月12日(日)18時迄にFAXして下さい

日本カトリック平和旬間が定められて30年目を迎えます。「平和への努力が『日本のカトリック教会の使命』である」として、教会はゆるぎなく平和への発信を続けてきました。しかし、昨年の福島第一原発事故は、「安全神話」を振りまき、原発に依存する危険な日本の進路がさらけ出されました。この結果を踏まえ、日本政府は、今後のエネルギー政策を見直すために**国民の意見を募集(パブリックコメント)**しています。政府への信頼度の問題もありますが、わたしたち一人ひとりの意見を出してみてはいかがでしょう。日本カトリック司教団は「いまずぐ原発の廃止」を呼びかけています。この呼びかけを参考にし、ご自身の意見を書き送る行動をしてみませんか。別紙にFAX用紙を準備しました。いまキリスト者としての選択を。

(編集部)

2ページを
参照下さい

政府にあなたの意思を伝えませんか パブリックコメントに応えて

いまキリスト者の選択を

非暴力でインドを独立に導いた
マハトマ・ガンジーの言葉

人は正しいと信じるときには、
その行為をためらってはなりません。
(みすず書房『ガンジー自立の思想』地湧社)

援助修道会 **修道院より**

8月11日:イチイチ祈りの会

場所は修道院聖堂、午後1時30分から。
どなたでもお出でください。

(FAX送信先) 03-6368-9460

エネルギー・環境会議事務局

「エネルギー・環境に関する選択肢」に対するパブリックコメント受付係

「エネルギー・環境に関する選択肢」に対する意見

1. 個人/法人等 ※1	次のうち、該当するものの番号を○で囲んで下さい。 1. 個人 / 2. 法人・団体等	
2. 氏名 ※2		
3. 住所 ※2		
4. 職業 ※3	次の中から該当するものの番号を○で囲んで下さい。 1. 会社員・公務員 / 2. 自営業 / 3. 家事専業 / 4. 学生 / 5. パート・アルバイト / 6. 無職 / 7. その他	
5. 年齢 ※3	次の中から該当するものの番号を○で囲んで下さい。 1. 10代以下 / 2. 20代 / 3. 30代 / 4. 40代 / 5. 50代 / 6. 60代 / 7. 70代 / 8. 80代以上	
6. 性別 ※3	次のうち、該当するものの番号を○で囲んで下さい。 1. 男 / 2. 女	
7. 連絡先 ※4	電話番号	
	メールアドレス	
御意見の概要 (100字以内)	私は、2030年の原発依存度を (いずれかに○印) 1. ゼロ(%)シナリオ 2. 15(%)シナリオ 3. 20~25(%)シナリオ を選びます	
御意見 及び その理由 ※5	私が()番シナリオを選んだ理由と意見です。	

※1 法人や団体等の場合は、その名称を御記入下さい。

※2 法人や団体等の場合は、主たる事務所の所在地を御記入下さい。

※3 法人や団体等の場合は、記入不要です。

※4 電話番号またはメールアドレスのうち、少なくともいずれか一方を御記入下さい。

※5 スペースが足りない場合は、適宜紙面を追加して下さい。



主は私を見つけた！

6人の司教と青年たちは出会い そしてWai Wai 語る

大阪教会管区の集いに参加して

報告／有吉優里(大学生)

7月7日～8日、岐阜県の多治見にある神言会ログハウス研修センターで行われ、召命について見つめなおしました。

青年は既婚者のスタッフも含め60人程度でした。

「主は私を見つけた」と言うけれども、神様は初めから、私が生まれる前から側にいてくださって その呼びかけに私が気づくかどうか、という話がありました。

ダイナミックメモリーという、今までの人生での出来事や、その時々の自分と神様の関係を振り返ってグラフに表すものをしました。それについて分かち合ったり、司教様のグラフの話や司祭召命を感じたきっかけを聞かせていただいたりしました。

どの司教様も、私たちと同じように幼少期があって信仰について考えだした時期も人それぞれということを知り同じ人間として司教様が身近に感じました。

青年からのまっすぐな質問に答えていただくコーナーあり、ワイワイ語る交流会ありの楽しい2日間でした。

御ミサでは神様の存在をそばに感じやはり私の人生のポイントで共にいてくださるキリストの働きかけに改めて気づきました。質問コーナーでの、「共に」生きることの大切さを語る司教様のお話が印象的でした。

自分の苦しみや、喜びを感じるとき、側にいる人・遠くにいる人のことを考えると感じ方が変わる。それぞれが「共に」関わって、大切にしながら生きていくにはどうすればよいのかということについて少し考えました。

個人黙想や赦しの秘跡もあってとても深い集まりでした。

2日間を通して、これまでの人生といつも共にいてくださる神様の存在を見つめることができて心が満たされるようでした。管区外からでしたが参加させていただけたことを感謝します。



私の意見

(援助修道会 Sr. 高木百代)

エネルギー政策に
対する意見

パブリックコメント

別紙に記入してFAXしましょう

私はこんなことを考えています。

①ゼロシナリオを選択します。 再稼動反対です。

この地震国日本で原発は危険です。又使用済み核燃料をこれ以上増やさないでください。 一日も早く安全な直接処分を研究し行うようにして下さい。 最も危険なプルトニウムを利用せず廃棄してください。 子孫にこれ以上大きな負の遺産を残してはいけません。

自然エネルギーの開発、省エネルギー産業の奨励、地産地消のエネルギーシステムに投資し、雇用をふやして下さい。 何よりもいちのちといのちを生かす自然と平和を大切に優先してください。

ご家族や友人、知人にこのパブリックコメントを出すことをおすすめ下さい。また意見をいろいろな方と分かち合って、お互いに拡げまとめる助け合いができればいいと思います。

土鍋でご飯を炊く（ポーさん）

元東電技術者で、今は蓄電方式の太陽光発電をしながら土佐清水市で自給自足の生活をしている木村俊雄さんの話を聞きました。

1991年に福島原発1号機で海水漏えいし、地下1階が水没、非常用電源が喪失する事故があり、津波の危険性を指摘したら、「津波を想定に入れるのはタブー」と言われ、安全対策が取られないことに愕然としたそうです。そんな東電の体質と原発の危険な実態、人間と共に存できないような物質（使用済み燃料プルトニウム）を作り続けていくことに、自分が仕事として加担していることに嫌気を感じて、東電を辞めたと言っておられました。「原子力がないと今の生活が成り立たないというのはウソ。電力会社、政財界がグルとなり、自分達の儲けのために電力消費するよう仕向けられた」ときっぱり。オール電化生活や、お得な深夜電力はすべて、原子力産業に仕掛けられたこ

とだったのです。1000万世帯が電気ポットからマホービンにしたら、原発が3基要らなくなるそうです。「10万円もするかまど焼き風電気炊飯器を買うより、だったら、〇〇風と言わず直火でご飯を炊いたらいいじゃないですか」と聞いて、私は目からウロコが剥がれた思いがしました。去年夏はクーラーを使わずに過ごし、電動ポットも止めて、ヤカンでお湯を沸かしていますが、炊飯器は使っていました。けれど、私は講演会を聞いてから早速、土鍋でご飯を炊くようにしました。意外に簡単、15分で炊き上がります。土鍋のご飯はふっくらして美味しいのなんのって！オコゲのちょっと混じった香ばしい美味しさは、ついぞ忘れていた味でした。

ツイッター

Tさんの通夜・葬儀に感動（M）

87才の生涯を終えられたTさんの通夜と葬儀が7月21、22日執り行われました。御遺族や御親戚、参列者の皆さんから多くの声をいただきました。その中で信徒のお声の一部を投稿します。

- ・私は、こんなに美しく心の籠ったお葬儀は経験したことがありませんでした。
- ・「私もこの様に見送られたい」と思う程、厳粛で温かいお葬儀でしたね。
- ・このような通夜・葬儀の方法があることを初めて知りました。
- ・「わたしの家族の為に、是非この手作りのしおりを下さい。」
- ・突然のことなのに、お名前の入った栄が用意され、ご準備された皆さんの温かい気持ちが伝わりました。
- ・司式者と先唱者の息の合った立派な式は、自ずと私達に故人を忍ぶ静かな気持ちに心を整えてくれました。
- ・お式の間、参列者の祈りの気持ちが一つになり、会場がひとつになってのお見送りでした。それは「教会は建物ではなく、イエスに繋がった人々の心の中にある」このことを見る思いでした。
- ・故人のご家庭の雰囲気に合ったやさしいあたたかいお葬儀でした。
- ・“感動”的のこと。もしもの時、お願ひ致します。
- ・「信者=教会で葬儀」とばかり思い込んでいました。親族のことも考えると、これはいいですね。
- ・神様が共にいてくださったことが、心から感じられました。※全部掲載できませんでした。謝

聖書朗読テープCDの写真『グーテンベルグ聖書』

グーテンベルグ（1397～1468）

西ドイツ、マインツ生まれ。父は高級官吏、母方の姓がグーテンベルグである。

ルネッサンス期の三大発明は印刷術と火薬と羅針盤と云われる。

ライン川とマイの合流点に近い中世以来の文化都市、商業都市マインツはヨーロッパにおける印刷術発祥地であり、書物の機械的製作という新技術の先頭に立ったのがグーテンベルグである。

1455年に四十二行聖書とよばれる美しいラテン語聖書の機械的印刷が完成した。当初に出版されたのは、200冊程で『グーテンベルグ聖書』



とも呼ばれる。それはゴシック書体の傑作で、いずれの点から見ても非のうちどころのない活版印刷最初の本であり、人はその語間から発する精神に読む以前にすでに心打たれたと云う。

晩年、彼は貧困と人々の忘却のなかで亡くなつたが、彼の発明した技術は急速に全ヨーロッパに広まり、宗教改革や科学革命を促した。（辞書より）

聖書朗読テープCDのお申込みは、竹井まで。

南京大虐殺の真相とは

秋告人記夫

10

南京大虐殺と聞くと、わたしは直ぐに日中国交回復前の一九六六年の夏、七月二〇日から八月十二日まで、九名の中国学術調査団の一員として中国を訪問した時のことが思い浮かんで来る。一九七二年九月の日中国交回復前だから、福岡より直接空路で中国へ渡航するのは不可能だつた。先ず日本政府から中国行きの許可を取るため、列車に乗つて上京し、自分で外務省に行き面倒な手続きを経、東京から空路香港へ飛んだ。香港から中国大陆へは、香港島の北岸から海峡を隔てる鉄橋の上に敷設された列車の線路の枕木の上を、とぼとぼと永い時間をかけて渡つた。下を見下ろすと枕木のあいだから海峡の白い波が泡立つのが見え、まったく身の細る思いだつた。

香港島の対岸九龍駅からまたも列車に乗り込み、広九鉄道を経由してやつと広州に到着、そこから上州、杭州、上海を経て南京へ辿り着き、やつと北京に到着。郭沫若氏らと面会したもののは突如文化大革命が発生し、急速慌ただしく北京空港から広州、台北経由帰国した。あの時の南京での思い出である。どんな思い出かと言うと、宿泊するホテルに到着し、部屋に荷物を置

二 南京大虐殺を巡る最近の動向

くと、すぐに一人で市内の景色を観ようとしたが、外に出た途端、ホテルの係員から「危ない」と叫ばれ引き戻された。そこで、「危ないから一人で出てはいけないと記憶がある。その時とつさにわたしは、日中戦争期の一九三七年一二月二三日前後、中国国民党政府の首都南京での日本軍の大虐殺行為の無謀さを感じた。

も「いわゆる虐殺はなかつた」と語り、改めて「将来の日本の子孫のためにも改めて持論を述べた。早速この河村市長の発言に対して、中国外務省の供給副報道局長は同日の記者会見で、「そのような見方には賛成できず、南京大虐殺には動かぬ証拠がある」と反論した。²

と口にし、どうどう上海の日本総領事館は三月一日、同総領事館などの主催で9日から3日間開く予定だった日中交流文化行事「南京ジャパンウイーク」の延期を発表。この行事は名古屋の女性アイドルグループ「SKE48」の公演なども予定され、国交正常化の40周年や日本の震災支援へのお礼の意味もあつたと報道。⁴

ついに河村たかし名古屋市長の配慮に欠けた発言から端を発したかつての大日本帝国の所業は、戦後六六年を経てまたもや白日に晒されねばならなくなつた。しかもこの河村名古屋市長の「南京事件はなかつたのではないか」という発言に、石原慎太郎東京都知事が賛意を表明しただけでなく積極的に「河村発言を支持し『南京』の真実を究明する国民運動」(代表、渡部昇一上智大学名誉教授、副代表、藤岡信勝拓殖大学客員教授)を立ち上げた。呼び掛け人として石原慎太郎知事をはじめ、安部晋三元首相らも名を連ねた。⁵

渡部昇一氏、藤岡信勝氏というと、すぐに思い出すのは、二〇〇八年一〇月三一日に大阪高等裁判所で、無罪の判決が出た大江健三郎氏の著書『沖縄ノート』に記載の「日本軍による集団自決強制」問題を、絶対にそんなことはないと異論を唱えた「新しい歴史教科書をつくる会」という団体である。藤岡信勝氏はこの会の中心人物であつた。⁶ (次号)

奄美のカトリック教会の歴史から学んだもの（5）

〈軍部の台頭と奄美との関係〉

前号の続き（谷司教講話より部分抜粋）

キリスト教の信仰は、そもそも人間の解放を目指している。それは抑圧する者や抑圧する国家への挑戦でもある。私達は神の似姿として自分の存在を与えた。人間の基本的権利や命を侵害するものは、誰でも許すことはできない。我々自身の解放をまず考える必要がある。モーセの教えやイエスの教えに戻つて考えていく必要がある。

神から与えられた人間の権利を基本とする共同体を作ること、それを大切にする、守られる教会を作る、それを福音として教会に伝えること。

信教の自由と政教分離の基本的人権に取り組むことは、信仰の基本的な事柄でもある。特に今回のシンポジウムでわかつたことは、奄美の歴史は出エジプトの歴史、400年前の殉教の歴史、長崎の四番崩れといった殉教の歴史と同じように、私達も、この奄美の歴史を語り継いでゆくことが、教会の歴史の中で、大切なことなんじゃないかと。

それは奄美の迫害の歴史も、まさに苦しむ民の叫びなんだ。その叫びを私達は守つて語り継いでゆかなければならぬと思います。キリスト教の迫害は、軍部と戦争の深い関係がありました。信教の自由を守るということは、平和を築いていくということにも繋がっています。だから一神教は闘いを産み出

すのではなくて、人間の解放を産み出すものなんだ。むしろ、この一神教というものは平和を、平和な社会を作つていくことを目指しているんだということを、はつきりとさせていく必要があると思います。



奄美大島には、和光園という国立ハンセン病療養所があります。(写真は園の向側にあるカトリック和光園教会)

和光園は他の療養所にはない特殊な状況がありました。「子どもを出産できる」と呼ばれた療養所でした。そこには、パトリック神父が和光園の横に暮し、ハンセン病患者と熱心に接したことと、事務長松原若安氏の力が大きかったといわれています。生まれた子どもはカトリック教会がバックアップした乳児院「名瀬天使園」が引き受け、その後、児童養護施設が設置されました。宮崎カリタス修道会がこの運営にあたりました。

奄美でのシンポは貴重な学びでした。戦前、日本は自国の境界線を、より拡大する方向へと走りはじめていました。一方キリスト教はボーダレスな（国境のない）神の国・平和な国を目指します。その価値基準は大きく異なります。富國強兵策のもとでは、国家を富ますためにと国民を欺き、全体の意思を虚像の中心軸に向けさせようとします。そこでは信教の自由が（信じたくない自由も含め）まつ先に奪われます。それはいま現在、当時と似通った状態にあると言つても過言ではないようです。手に聖書を持ちながら、自分の両足の動きはそれと矛盾していないか、常に振り返

分かち合いのとき

7月22日 8名参加
平和旬間に前に

虹の会

一被爆国から核なき世界へ

映画「ひろしま」予告編を観ての分かち合い

今回はキリストの席を中心に置き、丸く輪になってキリストの平和の中に分かち合いました。原爆の悲惨さ、核の恐ろしさに対して鈍感だったことを改めて確認し、「今の原発問題に無関心ではありたくない」「知ることの必要性」の声に皆さん共感しました。

そして、「核と人間とは共存できない。」「核の平和利用なんてあり得ない。」という強い思いが分かち合われました。

その思いの根底には信仰、日常生活に通じるものがあるとして、一人ひとりの体験が話され豊かな分かち合いの時を過ごすことができました。

8月はお休みです。

次回、9月23日
どなたでもご参加ください。

ハンセン病問題から見えるもの

差別の垣根を取り除くために(3)

お話／阿部智子さん(菊池恵楓園入所者)の要約です。



むぎなでしこ

以上、わたしのつたない体験をお話しました。みなさんにもう少し聞いていただきたいことがあります。今の日本でハンセン病問題と似た流れが起きつつあるということです。

(前号の続き)私は、妊娠したことがわからなくて、お腹の子が大きくなり産みたいと思っていましたが、医師からは早く堕したほうがいいと言われ、強制的に墮胎させられました。私は人前では泣かないようにしていましたが、なぜかその時大声で泣いてしまいました。涙がとめどもなく流れました。その時、医師から告げられた言葉は「そんなに泣くほどのことだったら、そんなことせな(しなければ)いいのに」。この冷酷な言葉に「生まれたいのちを葬り去らねばいけないなんて」といろんな思いや感情がからみにお祝いして時を過ごすのに」といろいろな心を持たない人の前で泣いたこと」が大きな悔しさでもありました。

母は、年に一度位会いにきてくれましたが、もしかしたらこれが最後かも知れないといつも思いながら、見送っていました。その母が亡くなつたとき私には知らせてもらえませんでした。ハンセン病に対する差別と偏見はものすごいものがあり、それが家族に重くのしかかっていたからです。恵楓園にいるということはそういうことなのです。母の死を知つたのは、数ヶ月後のことでした。知らせを受けた時、この地球が吹っ飛んでしまえばいいと思うほど、私の心ははじけ飛んでしまうような瞬間を感じました。私たちとは罪を犯したのではありません。国が真摯に取り組めば簡単に治る病気です。真剣にこの病いを研究し治す道へ進んだら、こんなに長い差別の歴史を歩まなくてよかつたのだにと思います。しかしやはり差別し続けるように仕向けられたのでしょうか。

猫がおかしくなった時、チツソは廃水溝を別のところに移したため汚染が広がってしまいました。それを国は指導もしていませんでした。きちんと対処していただと想います。朝鮮戦争がその背景のようで、増産体制の中で企業の金儲け主義に目をつぶりました。今回の東京電力の福島原発事故も同じようです。儲け重視で、そのため「安全」を国民に信じ込ませました。「ハンセン病は人に伝染する怖い病気」と国が宣伝したのと大変似通っています。日本の国民の多くは、国、政府が行なうことになびいてしまうようだ。放射能が25万年位経たないとなくならない危険なものを日本中に作り、それを「安全」と言い、今度は電力不足を煽つて稼動させようとします。最後に冤罪事件といわれるF事件(菊池事件)についてです。ハンセン病は隔離しないと伝染すると煽り、国民にも密告させる義務をつくりました。でも隔離させなければならぬほどの患者たちを療養所に入れたのに、そこで

(次号に続く)

編集後記

前号でお知らせした「内部被曝からいのちを守る」パンフ2,000部が2週間ほどで品切れとなり、急遽5,000部増刷しました。(脱原発を考えるカトリック市民の会発行)関心の高さが感じられます。これとは別に、東京の浄土真宗僧侶から電話がありました。「カトリック教会は、原発の即時廃止を訴えるなどいち早く行動していますね。日本の宗教界の牽引役を担っているようです。」いろいろと注目されているのは確かなようですが、地元での動きはどうでしょう。平和旬間期間中に自分にできる、行動をしてみませんか。(瀬下)